

年 組 番 氏名

(1) 俳句における(2)写実を強調した(3)正岡子規だが、くすりとさせられる作品も少くない。そんな句ばかりをコラムニストの天野祐吉さんが選んだのが『笑う子規』である。なかには「Aパロディー」すらある。「めでたさも一茶位や雑煮餅」▼ことしの正月は、一茶の「めでたさも中位なりおらが春」の「Bもじり」でお茶をにごすか――。子規の心のなかまで想像して、天野さんが付け加えている。正月の句には「雑煮くうてよき初夢を忘れけり」もある▼「C だじゃれ」で遊ぶ子規の句が見つかって、本紙東京本社版で読んだ。1897年に新年会を開いて福引きをし、①ケイヒン(景品)に合わせて詠んだ句だという。「新年や昔より窮す猶窮す」。当たったのは②キュウス(急須)のようで、「福引にキウスを得て③発句(ほつく)に窮す」の④詞書(ことばがき)も添えられている▼前年に⑤脊椎(せきつい)カリエスの手術を受けた子規だが、このときは⑥ショウコウ(小康)状態だったようだ。弟子の高浜虚子や河東碧梧桐らを連れ、⑦ジンリキシャ(人力車)で出かけた新年会である。病床の貧しい生活すら笑いに包み込む。弟子たちを楽しませ、自分も楽しむ姿が浮かぶ▼東京・⑧ネギシ(根岸)の家を訪ねてくる人たちと、病床の子規は交流を続けた。郷里の後輩でもある碧梧桐は、先客がいようが病人が寝ていようが、いつも自分の家のように上がりこんだと書いている。それでも外で会食をしたのは「ホンの数えるほど」だったという▼(4)「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」。子規は、痰を切るため⑨糸瓜水(へちますい)を愛用していたようだ。自分を仏に見立てた34歳の⑩ゼツビツ(絶筆)である。

〔2018年8月25日「天声人語〕

問一 ①～⑩のかタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 傍線部(1)「俳句」の「俳」をの意味を漢和辞典で調べてみよう。

((一) ①わざおぎ。芸人。「俳優」②たわむれ。ユーモア。「俳諧」

((二) ↓徘徊。(国) 俳諧・俳句の略。「俳人」)「漢字典第二版」旺文社より)

問三 傍線部(2)「写実」の観点から次の二つの和歌を比較し、感想を書いてみよう。

- ・春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる (凡河内躬恒)

- ・大海の磯もとどろに寄する波割れて碎けてさけて散るかも (源 実朝)

〔答例〕(ありのままに描写する写実的表現を使っているのは、実朝の歌の方である。

躬恒の歌は「春の夜の闇」を擬人化して目に見えない世界を描いている)

問四 傍線部(3)と同い年の親友で、ペンネームを譲り受けた文豪は誰か?

名前を答えよう。↓(夏目漱石)

問五 「A」「B」「C」に次のうち適する語を書き入れよう。

- ・だじやれ
- ・パロディー
- ・もじり

問六 次の句の作者名を文中から抜き出して、書き入れよう。

- ・曳かれる牛が辻でずっと見回した秋空だ (河東碧梧桐)
- ・春風や鬪志いだきて丘に立つ (高浜虚子)
- ・夏草やベースボールの人遠し (正岡子規)

問七 傍線部(4)の句を詠んだ時の作者はどんな心境だったか?想像して自由に書いてみよう。

〔答例〕(自分は糸瓜水ももう飲めなくなり、やがて死んで仏になるだろう、と達観している。)